

大分工業高校 甲子園出場 (3回目 17年ぶり)

第92回全国高校野球選手権大分大会最終日は27日、新大分球場で明豊—大分工の決勝があった。大分工が3—2で勝ち、17年ぶり3回目(前身の大分二高を含む)の優勝を果たした。大分工は一回、明豊の先発山野恭介(3年)の立ち上がりをとらえ、2点を先制。六回にも1点を加えた。明豊は大分工の先発田中太一(同)から九回に2点を返したが、あと一歩及ばなかった。

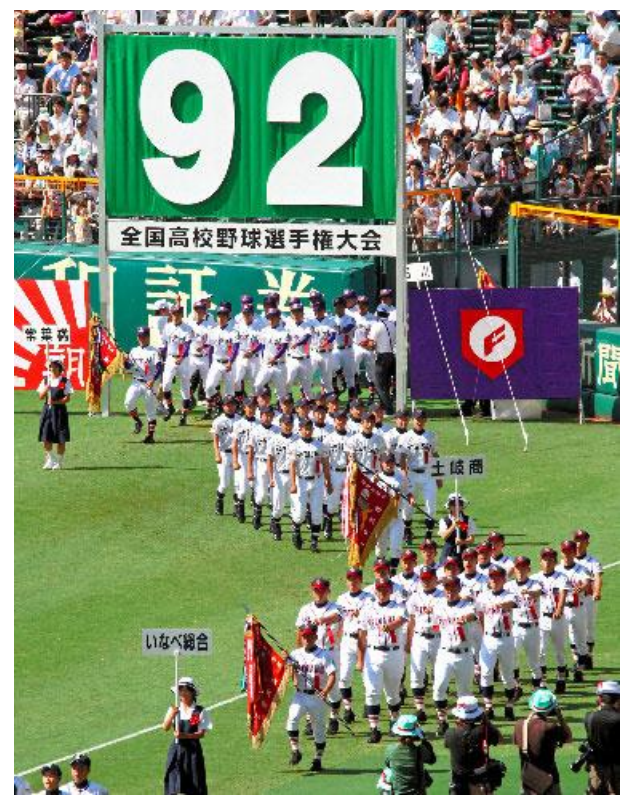
NO.	名前	学年	NO.	名前	学年
1	田中太一	3年	10	渡辺脩平	3年
2	佐藤耕一	3年	11	白根亮汰	3年
3	今井省吾	2年	12	藤田拓也	3年
4	新納将貴	2年	13	井上雄貴	2年
5	平山慧	3年	14	工藤将也	3年
6	町田大河	1年	15	伊藤竜二	2年
7	下川哲司	2年	16	弥田拓治	3年
8	西谷直樹	3年	17	阿南恵之助	3年
9	平野航史	3年	18	三浦広大	3年



優勝を決め笑顔で喜ぶ大分工ナイン=27日、新大分球場
[2010年07月28日 00:53]



大分工 17年ぶり甲子園



開
会
式





甲子園大会



熱戦風景





気台風4号が気になるどころ・・・絶好の天



まったく互角の戦い

追いかけているのが・・・？

我が母校大分工業高等学校が17年ぶり、3回目の甲子園大会出場が決まった。大会第5日目、8月11日の第一試合で同じ九州・隣の宮崎県代表の都城学院と対戦した鈴蘭台の孫も大の野球ファンで一緒に応援、観戦に行った。3塁側アルプス席からDAIKO応援団と一緒に大声で応援した。この上ない熱戦で4-4のまま、今大会初の延長戦にもつれこみ、最後は惜しくもスクイズでさよなら敗戦となった。

この日は仙台育英vs開星、東海大相模vs水城の試合も大接戦の好試合だった高校野球の醍醐味を満喫することが出来たし、東海大相模の応援の素晴らしさも見る事が出来た。

昭和37年機械科卒の後藤恒康さんも応援に来ていた。さすが彼は高校時代は応援団長だったこともあり、飛び入りチアリーダーとしての大活躍もみる事が出来た。高校時代野球部だった朝来野二郎さんも応援に来ていたとのこと(後藤さんの話)



昭和35~36年(1960-61)当時の
応援団長 後藤恒康 さん
飛び入り チアリーダー



神戸新聞

発行所
神戸新聞社
〒650-8571
有中央区東山崎町
1-5-7
www.kobe-np.co.jp/

きょうの紙面

延岡学園 試練越え笑顔

延岡学園5-4大分工

口蹄疫禍(こうてい)疫問題で揺れた宮崎の代表として簡単にあきらめるわけにはいかなかった。延岡学園が延長10回サヨナラ勝ち。暴投で決勝のホームを踏んだ横山雄は「みんなが喜んでいてのが見えた。気持ちよかったです。仲間が駆け寄ってくる勝利の光景は最高だった。」

先行されて追いかける展開にも、重本監督は「バタバタせず終盤勝負だ」と選手に伝えた。3-4と勝ち越された直後の七回だ。先頭の浜田が四球で出塁し、盗塁と悪送球で三塁へ。1死となつて横山雄が立ちスライズ。4月に就任したばかりの指揮官は「しぶとく粘ってくれて本当にうれしい」とうなづいた。強気な姿勢が勝利を引き寄せた。延長10回無死一塁の場面では、走者の横山雄が果敢に盗塁

地元は口蹄疫禍 試合勘不足 工夫で補う

を成功させた。さらに1死一、三塁で重本監督は2度バントをラァウルした矢野に、再びスライズのサイン。「僕が後ろ向きになったら駄目」と28歳の指揮官。結果は外されて三振となったが、打球が大きくそれて決勝点が転がり込んだ。

口蹄疫問題の影響で5月末から対外試合ができなかった。横山雄は「(紅白戦で)試合のようにみんな考えてやっていた。それがつなげられたと思う」と実感を含めた。注目を浴びるなか「プレッシャーにならないかはいいが」という監督の不安は、試練を乗り越えた教員が尻尾を一掃した。延岡学園・坂元投手(二回まで)は失点二自分がゲームを助けかけていた。周りに助けられた延岡学園・小田原投手(八回途中から好救援)「試合前から言われていた。いつでもいけるように準備していた」



延岡学園一対大分工 10回裏延岡学園1死一三塁 打者矢野のとき、暴投でサヨナラを生還を許す 捕手佐藤 撮影・高部洋也

大分工のエース サヨナラ暴投 田中後悔深く

143球の熱投の末に待つていたのは、あまりにもつらい幕切れだった。大分工のエース田中はサヨナラ暴投で初めての甲子園を去った。延長10回、先頭打者を安打で出し、盗塁とバントなどで1死一、三塁のピンチを招く。続く打者はバントを二度失敗。迎えた4球目も変化球で外したが、捕手の構えを大きく外れた。「すっぽ抜けた感じ。変な球を投げたしまった。ほうっせん自失の表情で右腕はうなだれた。」

大会注目の好投手の一人だった。春に痛めていた右ひじは回復し、フルベンでの調子もいつも通りだった。だが「腕を振っているつもりでも球がいついかなかった。本調子とは遠く、12安打を許した。」

17年ぶりの出場が初勝利を目指したが、あと一歩及ばず。「最後までこんな形で終わってとても悔しい」。後悔の念はかりが口をついて出た。

大分工・平野主将「いつも田中に助けてもらっている分を、自分たちが返さないといけないと思っていたが…」

第92回 全国 高校野球

第5日



(第3種郵便物認可)

第92回全国高校野球選手権大会第5日は11日、甲子園球場で3試合を行い、2回戦で東海大相模(神奈川)が初出場の水城(茨城)を10-5で退け、3回戦に進出した。1回戦は延岡学園(宮崎)と仙台育英(宮城)が勝

って2回戦に進んだ。東海大相模は1点を先制された直後の二回、5長短打で4点を奪い逆転。以降も効果的に加点して突き放し、34年ぶりに夏の甲子園勝利を果たした。今大会初の延長戦は延岡学園が大分工に5-4で十回にサヨナラ勝ち。延岡学園は1978年夏以来、32年ぶりの甲子園勝利となった。仙台育英は九回2死から3点を挙げ、開星(島根)に6-5で逆転勝ち。春夏通算30勝目を挙げた。

▽1回戦

大 分 工 (大 分)	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0
延 岡 学 園 (宮 崎)	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0

0 | 4
1 | 5
(延長10回)

【評】延岡学園がサヨナラ勝ち。延長10回、横山雄の左前打と盗塁などで1死一、三塁とし、矢野がスライズを空振り三振したが、暴投となって勝負を決めた。序盤は先行されたが、六回に押川の適時打、七回は横山雄のスライズで追いつく粘りを見せ、坂元、押川、小田原の継投でしのいだ。大分工は12安打を放ちながら、好機であと1本が出なかった。



